

精神病患者の「治療の場所」=ゲールにおける
家庭看護の歴史を再検討し、
近未来の精神医療のあり方を探る好著！

「治療の場所」の歴史

ベルギーの街ゲールと精神医療

A5判・上製・264ページ／定価4,800円+税
ISBN978-4-86617-111-1

橋本 明 ● 著
HASHIMOTO Akira

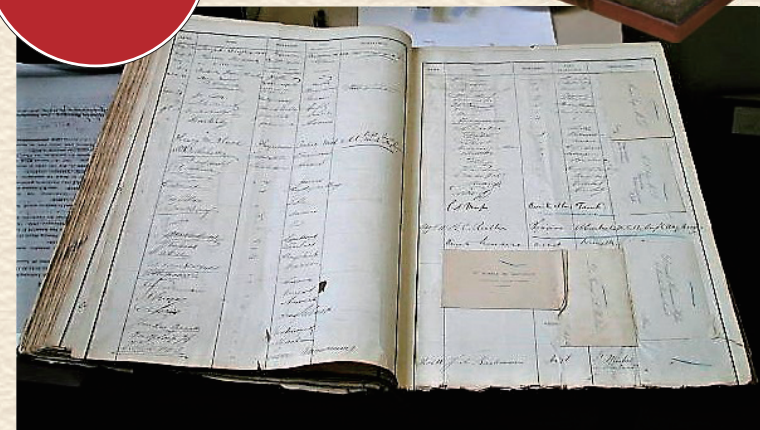
電子書籍版も同時刊行！ 詳細は弊社HP電子書籍の
案内ページをご覧ください

本書は、ヨーロッパ中世に始まるとされるベルギー・フランドル地方の精神病患者の巡礼地=ゲール (Geel) の歴史を、伝説的な時代にまで遡って紹介し、同地で生み出された「家庭看護」システムへの国際的な関心と議論の広がりや、近現代の精神医療の歴史的な文脈に沿って分析する。

また、精神病患者を一般家庭に預けて看護するというゲールの「家庭看護」システムの国際的な伝播現象を実証的に検討するために、ゲールに残された「見学者名簿」を新たな分析ツールとして、見学者の見学の意図を特定しながら、それぞれの出身国・地域における精神医療の改革意図と「家庭看護」システム導入との関わりを探る。

加えて、「日本のゲール」と紹介されてきた京都洛北の岩倉を国際的な視点から捉え直し、これまで取り上げられることのなかった保養所の「宿泊名簿」の分析をとおして、岩倉とゲールにおける精神病患者の属性などに関する数量的な比較を試みる。

2020年
11月刊行！



写真=聖ディンブナ像(上)、ゲールの見学者名簿(下)

注文カード

帖合・貴店名

〈八木書店経由〉

注文数

冊

定価●本体四、八〇〇円＋税
ISBN978-4-86617-111-1

「治療の場所」の歴史 ベルギーの街ゲールと精神医療

発行 六花出版 著 橋本明

お名前

お電話番号

注文 年 月 日

●弊社は注文制です。お近くの書店へご注文ください。
お急ぎの場合は小社に直接ご連絡ください。電話03(32963)8787

Fax 03(32963)8788

電子メール info@rikka-press.jp

「治療の場所」の歴史～ベルギーの街ゲールと精神医療●目次(抄録)

はじめに 「治療の場所」をめぐる

第1章 ゲールの成立と展開

第1節 伝承と巡礼

- 1 聖ディンブナ伝とその解釈
- 2 聖ディンブナに集まる信仰
- 3 治療の儀式と聖人との結びつき
- 4 巡礼の空洞化

第2節 1797年以前の家庭看護の制度

- 1 主体としてのゲール
- 2 俗人による支配
- 3 聖職者の役割
- 4 教会参事会による体制整備
- 5 都市貧困患者の流入

第3節 ゲールと精神医療の近代化

- 1 法制度と施設の整備
- 2 19世紀末の家庭看護

第4節 19～20世紀に寄せられた国際的関心

- 1 初期の評判
- 2 「ゲール問題(The Gheel Question)」の時代
- 3 再び高まっていく関心
- 4 第一次世界大戦以降
- 5 ゲールと日本の精神医療、および京都・岩倉

第2章 見学されるゲール

第1節 ゲール・コロニーの見学者名簿

- 1 ゲールに残る2つの見学者名簿
- 2 外国人の見学者
- 3 ゲール見学のコンテクスト

第2節 ドイツにおける精神科家庭看護の盛衰史

- 1 家庭看護導入に関わる初期の議論

- 2 家庭看護の導入開始
- 3 家庭看護の衰退と回復
- 4 家庭看護の壊滅
- 5 第二次世界大戦後の展開
- 6 家庭看護が果たした役割

第3節 ゲール見学者とドイツの精神医療

- 1 ザクセン州の見学者
- 2 ブランデンブルク州の見学者
- 3 他の地域からの見学者など

第4節 ゲール見学者とオーストリアの精神医療

- 1 オーストリアの精神病院史
- 2 ニーダーエスタライヒの精神病院改革とマウアー・エーリング精神病院の建設
- 3 1900年前後におけるニーダーエスタライヒからのゲール見学者とその背景
- 4 その他のオーストリアからのゲール見学者とその背景

第5節 ゲール見学者と北米の精神医療

- 1 アメリカと家庭看護
- 2 カナダと家庭看護

第6節 精神科医バークレー＝ヒルと英国植民地インド

- 1 インドの精神病院史
- 2 バークレー＝ヒルとインド人精神科医
- 3 バークレー＝ヒルと家庭看護

第3章 ゲールと京都・岩倉——日本の文脈

第1節 つくられた「岩倉」像

- 1 岩倉は時代錯誤である
- 2 岩倉からゲールへの着想
- 3 「岩倉は日本のゲールである」



呉秀三

- 4 ドルフ・イワクラの海外デビュー
- 5 「世界に誇るべきこと」
- 6 歴史としての岩倉

第2節 戦前の岩倉における一保養所の宿泊者の動向

- 1 対象と方法
- 2 結果
- 3 考察

第3節 「日本のゲール」再考

- 1 スティータとは誰か
- 2 「ゲールと岩倉」という括り方
- 3 岩倉の新たなコンセプト

第4節 岩倉をめぐる新たな解釈

第4章 戦後の展開

第1節 第二次世界大戦以降のゲールおよび家庭看護

第2節 ゲール・ファミリー・ケア・リサーチ・プロジェクト(1966～75)

- 1 ゲールの精神科家庭看護の起源と展開
- 2 第二次世界大戦後のアメリカの精神医療
- 3 GPの開始まで
- 4 GPの展開
- 5 GPの成果と挫折
- 6 GPの歴史的意義

第3節 ゲールの歴史と伝統を継承するプロジェクト

著者紹介

橋本 明(はしもと・あきら) 愛知県立大学教育福祉学部教授
1961年、静岡県に生まれる。東京大学理学部卒業、東京大学大学院医学系研究科博士課程中退。博士(医学・東京大学)。専門は精神医療史。
著書:『治療の場所と精神医療史』日本評論社(2010年、編著)、『精神病者と私宅監置』六花出版(2011年)、W. Ernst (ed.): *Work, Psychiatry and Society, c. 1750-2015*. Manchester University Press (2016年、分担執筆)ほか